

四十二番街 (1933)

42ND STREET

メディア 映画

ジャンル ミュージカル ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 86分

初公開日 1933/06

公開情報 劇場公開

【解説】

ブロードウェイの大物製作コンビ、ジョーンズ&バリーが新作に乗り出すという噂で町は持ちきり。演出は稀代のヒット・メイカー、ジュリアン・マーシュ（バクスター）で、財産をウォール街につぎ込んで身心とも疲れ果てた彼は、これを“遺作”にと張り切っている。主演は、スポンサーのデュラン氏の依頼で彼ご執心のスター、ドロシー・ブロック。彼女にはよりの戻りかかったかつてのパートナー、パットがいたが、ジュリアンは出資者の機嫌を損ねてショーをオシャカにされてはたまらないと、ヤクザを雇って彼にドロシーに近づかないように脅しをかける。オーディションでコーラス・ガールの一人に選ばれたペギー（キーラー）は新進歌手のビリー（パウエル）に一目惚れされるが、稽古中倒れた所を親切に介抱してくれたパットを憎からず思う。彼に送られ下宿に帰った所を大家に誤解され追い出しを喰らうと、彼女に行くあてはなく金もない。仕方なくパットの部屋に世話になる。うたた寝の彼女に少し怪しい気持ちも起こすが、パットの意中にあるのはドロシー一人。紳士的に彼女を自分のベッドに寝かすのだったが、そんな二人の仲を疑ったドロシーは彼に別れを告げる。しかし、彼の巡業先とショーのオープニング地がたまたま一緒になって、彼と鉢合わせ。そこで二人の仲を裂こうとする企みに、却って彼への想いを強くし、誤って足首を骨折するが、にこやかに主役の座をペギーに譲るのだった。

……という1時間ちょっとのお話の後に幕を開ける舞台『プリティ・レディ』こそこの映画の見もの。列車がまっぶたつに割れ、車内の寝台、新婚カップルのパウエルとキーラーをからかう唄と踊り。いわゆるB・パークレイ調の群舞（女性の股間越しの奇抜なショット）、キーラーの機関銃タップ。そして、タイムズ・スクエア一帯の状況を実に映画的につなぎ合わせて構成する、主題歌“42番地”のシーケンス。その30分弱の内容の充実ゆえに本作はミュージカル映画史に燦然と記録されるのである。

【クレジット】

監督	ロイド・ベーコン	Lloyd Bacon
原作	ブラッドフォード・ロペス	
脚本	ライアン・ジェームズ	Rian James
	ジェームズ・シーモア	James Seymour
撮影	ソル・ポリト	Sol Polito
出演	ビービー・ダニエルズ	Bebe Daniels
	ジョージ・ブレント	George Brent
	ワーナー・バクスター	Warner Baxter
	ウナ・マーケル	Una Merkel
	ルビー・キーラー	Ruby Keeler
	ガイ・キビー	Guy Kibbee
	ネッド・スパークス	Ned Sparks
	ディック・パウエル	Dick Powell
	ジンジャー・ロジャース	Ginger Rogers

